

## 2014年11月定期報告と次月度以降の活動予定

### 活動日誌

1 1 月	6 日	コープしまね 30 周年 6-7 日
	9 日	うつのみや食育フェア
	10 日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会
	11 日	県連常務理事会
	12 日	消費者カレッジ『宇都宮大学』
	13 日	栃木放送番組審議会
	14 日	とちぎ食品安全地域フォーラム(県北)
	17 日	地方消費者グループ・フォーラム関東ブロック実行委員会
	18 日	ふれあいお茶会
	20 日	JA 栃木女性会フェスティバル
	21 日	とちぎコープ NPO 助成金審査会
	22 日	よつ葉生協「生協まつり」
1 2 月	27 日	消費者カレッジ『栃木県農業大学校』
	27 日	栃木県レジ袋削減協議会
	29 日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	1 日	第3回『組合員・役職員学習会』(ワークショップとファシリテーション ファシリテーションの基礎)
	3 日	消費者カレッジ『国学院大学栃木短期大学』
	4 日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会
	4 日	ろうきん・全労済忘年会
	6 日	ECO テック&ライフとちぎ2014 6-7 日
	9 日	県連理事会
	10 日	<b>協同組合交流会</b>
	11 日	とちぎ食の安全ネットワーク(全体会)
	13 日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
15 日	第4回『組合員・役職員学習会』(昨今の消費者問題と消費者市民社会の意義)	
15 日	食と農を基軸として地域に根ざした協同活動フォーラム JA	
15 日	関東農政局 消費者団体との意見交換会	
18 日	栃木放送番組審議会	
18 日	食肉センター整備検討委員会	
20 日	ふれあいお茶会	
1 月	5 日	宇都宮市商工会商工会議所三者賀詞交歓会
	5 日	小山市商工会議所賀詞交歓会
	13 日	日本生協連政策討論集会 13-14
	16 日	常務理事会・財政検討委員会
	16 日	<b>賀詞交歓会</b>
	19 日	エコクラブ壁新聞コンテスト
	20 日	第5回『組合員・役職員学習会』(日本の貧困について)
	22 日	とちぎ食の安全ネットワーク(世話人会)
	23 日	とちぎ食の安全安心推進会議
27 日	とちぎ消費者ネットワーク(全体会)	
27 日	地連運営委員会・県連推進会議	
2 月	2 日	くらし部会
	10 日	定例理事会
	19 日	『平成 26 年度関東ブロック地方消費者グループ・フォーラム』(10 時 30 分～15 時 15 分、栃木県総合文化センター)
	24 日	とちぎ消費者ネットワーク(世話人会)

### 県連活動

#### 1. くらし部会

11 月定例会はありませんでした。重点課題の進捗は次の通りです。

#### ●(介護保険制度改定に伴う活動経過)「市町訪問活動」

介護保険制度の改定にともない、新しい地域支援事業の計画状況の把握、及び計画促進の要請と生協の活動資源を使った支援の訴えかけをする市長訪問を実施します。

日	課題	取組み内容
8/29	全体 学習会	『「介護保険制度の改定に向けた市町村訪問活動について」～新しい地域支援事業～これまでの介護保険精度と何が変わるのか?市町村訪問のポイントについて』

		講師：日本生協連福祉事業推進部 山際部長⇒参加者は39名で、「分かりやすく説明をしていただき理解が深まった。」との感想多数。
8月 9月	会員取組み 事前集約	訪問を前に、各生協の事業状況やサービス資源を集約し、支援事業に役立つことがないかなど、市町にアピールできるように資料作成の集約を行う。
10/14	小山市訪問 事前学習	小山市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：事業団 佐藤理事長
10/16	小山市長訪問	市長と30分の懇談、その後高齢生きがい課と懇談し、地域協議会などへの参加要請をした。
10/24	宇都宮市 訪問事前学習	宇都宮市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：ふれあいコープ 崎谷専務理事
10/27	宇都宮市長訪問	市長と10分間の懇談、秘書課が対応となりました。

### ● (行政との協働事業)

- ・「うつのみや食育フェア2014」(11月9日)に生活クラブ生協、よつ葉生協、とちぎコープが参加しました。食育や食事バランスのクイズを実施し、300名以上の方が参加いただき、雑穀米のプレゼントをしました。
- ・「ECOテック&ライフとちぎ2014」(12月6日7日)の出展を予定しており出展内容の具体化を検討、準備しています。

## 2. 『組合員理事・組織活動担当職員学習会』の開催

11月は、会議や集まりの場で広く使われるワークショップを学びました。参加者が共感したり、参加意識か向上するなどファシリテーターとしての心得など作業をしながら学びました。

	日	テーマ	講師	参加
1	9/22	「協同組合思想とその歴史」	栃木県生活協同組合連合会 竹内会長理事	36人
2	10/27	「今なぜJA改革なのか」	宇都宮大学 農学部 農業経済学科 秋山満教授	35人
3	12/1	「共有を深めるワークショップを学ぶ」	宇都宮大学 教育学部 住環境・まちづくり研究室 陣内雄次教授	39人
4	12/15	「消費者市民社会について」	横浜国立大学 教育人間科学部 西村隆男教授	
5	1/20	「山谷の現状からみえてきた事 地域住民による生活困窮者の支援」	NPO法人 自立センターふるさとの会 滝脇憲常務理事	

## 3. 『組合員・役職員学習会』の開催

今年は現在までで2回の開催となりました。あと1回の開催を予定しており、テーマを検討しています。

	日	テーマ	講師	参加・備考
1	7/7	いま憲法について考える ～憲法のいきづく国にするために～	伊藤塾 塾長伊藤真弁護士	参加81名 「憲法について改めて学ぶ機会になった」との感想あり。
2	7/26	TPP交渉の現状と今後の見通し ～私たちの暮らしにどう影響するのか?～	東京大学大学院農学 生命科学研究科 鈴木宣弘教授	参加104名 「知ることの大切さを知った。」などの感想あり。

## 4. 行政、他団体との協働

- 1) 恒例の報道代表者会との懇談会を12月2日(火)予定していましたが、衆議院選挙となり延期しました。
- 2) 協同組合間交流会は、12月10日(水)を予定しています。
- 3) ユニセフハンドインハンドを例年通り11月12月の期間で、各会員が取組み中です。

## ネットワーク活動

### 1. とちぎ食の安全ネットワーク

11月の定例会はありませんでした。重点課題の進捗は次の通りです。

## ●(食品安全フォーラム)

栃木県とネットワークの共催となる食品安全フォーラムの実施。

地区	日	テーマ	場所	参加
第13回	10/9	放射性物質と食品の安全性について～今それぞれの立場で取り組んでいること～	県庁研修館講堂	148人
安足地域	10/23	食品工場の品質管理について～カレーのルーはどのようにつくるの～	ハウス食品(佐野市)	18人
県北地域	11/14	食品中の残留農薬と食品の安全性について	大田原市総合文化会館	58人

## ●(全体会を使った学習会)

毎回全体会では学習会を実施しています。

日	テーマ	講師
5/15	輸入食品の監視体制 TPP 参加で大丈夫か	宇都宮大学 宇田靖名誉教授
9/25	動物医薬品と食の安全性に関わるセミナー 「動物医薬品の安全性確保について」 「県における動物医薬品の適正使用の啓発・指導の状況について」	内閣府食品安全委員会事務局関口秀人課長補佐 栃木県農政部畜産振興課小松亜弥子主査
12/11	ハサップ(HACCP)学習会	未定
3/19	食品表示について(仮称)	未定

## 2. とちぎ消費者ネットワーク

11月の定例会は、「地方消費者グループ・フォーラム」の具体化、消費者カレッジの状況などについて話し合う栃木実行委員会となりました。

### ●(地方消費者グループ・フォーラム関東ブロック開催準備)

消費者問題の活動をしている団体を中心に交流する消費者庁提案の交流会「<sup>1</sup>地方消費者グループ・フォーラム」の関東ブロック開催(2015年2月19日、栃木県総合文化センター、270名規模)をとちぎ消費者ネットワークで担います。全国のキックオフ集会在8月28日に東京で開催され、それを受けて9月4日、9月30日、10月28日、11月10日と栃木実行委員会を開催しました。テーマ・参加団体・会場などの案を決め、関東ブロック実行委員会11月17日に提案しました。

### ●(とちぎ消費者カレッジ計画)

「若者(主に大学生)を対象にした消費者被害防止の啓発委託事業」を栃木県から受託し、大学、専門学校で、啓発授業を実施する事業です。今年度は5校実施します。

大学	日時	テーマ	講師・内容	参加
①宇都宮共和大学子ども生活部	9/29(月)14:45-	・若者の消費者問題を考えてみましょう「相談の現場から伝えたいこと」	白土浩一トネット副理事長	39人
②作新学院大学女子短期大学部	10/20(月)14:40-	・二十歳の責任「消費者被害を受けない、与えない」	服部弁護士	133人
③宇都宮大学	11/12(水)16:10-	・契約の意味と消費者被害の実態	山口弁護士 岡田浩一トネット理事	78人
④栃木農業大学校	11/27(木)13:10-	・若者の消費者トラブル 現状と対応	山田浩一トネット理事	62人
⑤国学院大学栃木短期大学	12/3(水)14:30-	・消費者トラブルに遭わない為に	山田浩一トネット理事	

### ●(全体会を使った学習会)

毎回全体会では学習会を実施しています。

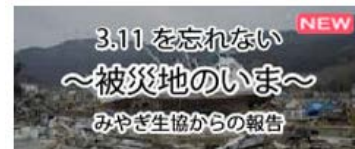
日	テーマ	講師
5/27	消費者問題はなぜおこる	山田幹事
7/22	消費者市民社会における栃木県内のパブリックコメント制度を検証する	高岡幹事
10/28	適格消費者団体について	服部幹事
1/27	未定	葛谷幹事
3/24	未定	杉原代表

<sup>1</sup> 地方消費者グループ・フォーラムとは、消費者庁の呼びかけによる消費生活に関する問題に携わる各地域の団体・グループと、行政を含めた多様な主体間で連携を図り、各分野で諸課題に取り組むために、全国ブロック毎に設けられた情報交換及び意見交換等をする「交流の場」。平成23年から5回目の開催となる。

## 震災支援活動

- みやぎ生協から発信される「3.11 を忘れない 被災地のいま」をホームページで連続掲載支援

11月6日第15回となる情報「待たされる家選び、慣れない住み処」を掲示しました。



- 被災者生活再建支援制度の拡充を求める請願署名の実施

会員名	筆数	備考
栃木県学校生活協同組合	2,080 筆	直接宮城生協連に送付済み 群馬県連の提案で実施済み、筆数は群馬県連で計上
栃木保健医療生活協同組合	45 筆	
足尾銅山生活協同組合三養会	5 筆	
よつ葉生活協同組合	953 筆	
栃木県職員生活協同組合	20 筆	
栃木県労働者共済生活協同組合	90 筆	
栃木県農協連職員生活協同組合	3 筆	
生活クラブ生活協同組合	217 筆	
とちぎコープ生活協同組合	2,388 筆	
合計	5,801 筆	

(2014年11月27日集約時)

- お茶会の実施

**ふれあいお茶会** 行政、NPO 法人ウィズ、県連会員などの協力のもと、社会福祉法人ふれあいコープ特養みどりの地域交流室を使って開催する福島からの避難者を対象にしたふれあいお茶会を定例で実施しています。(目的：①参加者同士をつなげる場、②参加者の想っていること困りごとを受けとめつなげる場、③おしゃべりを楽しんでいただく場：基本は毎月第三火曜日開催)

**いわき市四倉仮設住宅お茶会** 県連会員の協力のもといわき市四倉仮設住宅に暮らす避難者の方を対象にしたお茶会を実施しています。(目的：ふれあいお茶会と同様・基本は毎月第二土曜日開催)

ふれあいお茶会	いわき市四倉仮設住宅お茶会
2014年11月18日(火) 午前10時～12時 ●参加者:17名 ●スタッフ:15名(行政2名・くらし応援会2名・ウィズ1名・生協連10名) ●場所: 特別養護老人ホームみどり 地域交流室 (スタッフ感想から) ・お孫さんの面倒を見ているとの話題で盛り上がった。おしゃべりの場を求めていると感じた。 ・宇都宮からいわき市へ引越方から、ゆず大根をいただいた。笑顔で送り出したい。 ・高齢の方、前回元気がなかったが、今日の話ではゲートボール、カラオケ、ダンス等で毎日出かけているとのこと。次回のクリスマス会も楽しみにしているとのこと。 ・段ボールの処理に困っているとのことで、次回のお迎えの際に運んでまいしょうということになった。 ・初めて参加の方、この歳になってアパート暮らしをするなんて思ってもいなかったとおっしゃっていた。 ・手芸をしながら、昨日は一言もしゃべらなかつた、ここでしゃべらないとどこでしゃべるの、との話があった。次回は手芸とおしゃべりの両方が楽しめるようにしたい。 ・会話の中から実は3年前にすでに会っていたことが分かり、地元のお店など話などで盛り上がった。 ・ある方の話では福島から引っ越してきて引きこもっている方がいるとのこと。小山にお住まいとのことだがお茶会にお誘いした。(浪江町役場の方)	11月29日(土) 午前10時30分～14時 ●参加者10名 ●スタッフ12名(とちぎコープ元理事3名・現理事6名・生協連3名) ●場所:いわき市四倉工業団地応急仮設住宅集会所 好評の工作は、「図柄を入れた飾りたて」と「未柄のポチ袋」の作成を行い、みなさんおもいおもいの図柄を選んで、世界に1つだけの作品を作られていました。 いつも「おいしい」と評判の食事は、おこわ、高菜のおにぎり、シチュー、ポテトサラダ、漬物、柿と大根の酢のものなどでした。 会話の中では、「希望すれば線量計が配布されるようになり、後でこの日の線量が高かったなど見ている」「ねこがいて、生きる張り合いになり良かった」「除染で見知らぬ人々が入りしているので、不安になる」「戻ると一人になり不安なので、最後まで仮設に残りたい」など帰宅準備がすすむ一方で、今後の生活に対する不安が多く出されていたようです。 男性グループは、今回「山芋掘り」の予定でしたが、雨ということもあり、五社山の方に「紅葉狩り」に出かけました。霧も出るあいにくの天気でしたが、黄色から赤へのグラデーションがきれいでした。案内してくれた方も「近くに住んでいると来ることはないの、きれいな紅葉が見られて良かった」と感想を言っていました。

- ・暮らし応援会の訪問活動の方がすべて栃木出身の方になった。訪問の際同郷の方だと心を開くと思うが、複雑な気持ちになった。(浪江町役場の方)
- ・福島から住民票を移してしまうと元の住まいのサービスが受けられなくなる。いまだに想像できない問題を抱えていると感じた。(浪江町役場の方)
- ・外に出ておしゃべりをするのは大事なこと。いまだ家において助けを求めている方にどう働きかけて良いか考えてしまう。(浪江町役場の方)

以上